Ⅵ　総合的考察及び課題

「生活を楽しむ子」の研究主題のもとに、発達年齢と生活年齢がともに低く、生活経験も乏しい小学部の児童、社会生活への基盤ができ、思春期にさしかかっている中学部の生徒、さらに社会生活を目前に控えている高等部の生徒の、それぞれの特徴を踏まえた目標を設定し、その目標に向かって、次表のように、実践を積み上げてきた。

小　学　部	中　学　部	高　等　部
・教育課程や単元の大きな変更はなかったが、題材について、工夫をしていった。 ・特に、教師の支援が重要と考え、共通理解のもとに実践した。	・題材の選定に関して、個に応じた題材や内容を意図して開拓し、試行した。 ・支援のポイントを共通理解し、学習の中で生かした。 ・家庭との連携に努めた。	・一人ひとりのめざす「生活を楽しむ」像を設定して、授業づくりに取り組み、有効だった題材選定や支援を洗い出した。 ・自分づくりの各段階から対象生徒を選び、個人事例を追求した。

この「生活を楽しむ子」の研究を実践していくなかで、児童生徒が自分で思考し、選択している姿が多く見られるようになった。また、教師は、思考の機会を持たせ目標に向かう児童生徒をいかに支援をするかという視点で授業を見直していった。その結果、徐々にわれわれがめざす「生活を楽しむ子」に近づいてきている。さらに、次のような来年度の課題が設定された。

小　学　部	中　学　部	高　等　部
・個を見すえながら、「題材の選定」「支援」について考える。 ・楽しみ方の評価をする。 ・家庭との連携を図る。 ・遊びの時間や自由時間などを有効に利用していく。	・題材選定の視点をより明確にし、題材を精選する。 ・生徒の発達段階を多面的にとらえ、個に応じた目標を設定し、評価する。 ・教師の適切な支援の仕方および関わり方をつかむ。	・個々の楽しむ姿をより具体的にとらえる。 ・「生活を楽しむ」の視点に沿った題材を選定し、適切な支援の仕方をさらに検討する。 ・評価の仕方を工夫する。

本研究は、３年で一区切りつけたいと考えている。来年度の３年次には、「評価」の問題が中心課題となる。児童生徒が、めざす「生活を楽しむ」像に近づいていったかどうか、評価をしていきたい。

学校全体の研究としては、小学部、中学部、高等部の課題に基づく実践を基本としながら、12年間一貫教育をめざして、①「題材の選定」や「支援」についての一貫性　②生活年齢や発達段階に応じた「自己活動」や「思考の過程」や「達成感・成就感」についてもまとめていきたい。また、「思考の過程」を支えるものとして、「生活を楽しむ」ための基礎的な力を身につけていくことも大切である。題材の選定と絡めて考えていきたい。

この研究主題を設定するにあたっては、児童生徒の将来の姿を豊かなものにしたいという願いがあった。そのためには、家庭や地域との連携や社会とのつながりも忘れてはならない視点である。　（倉）